

市長記者会見記録

日時：2016年12月22日（木）午後2時00分～2時22分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：平成28（2016）年川崎市10大ニュースについて（総務企画局）

<内容>

<平成28（2016）年川崎市10大ニュースについて>

司会： それでは、ただいまより市長記者会見を始めます。

本日の議題は、「平成28（2016）年川崎市10大ニュースについて」となっております。

それでは、市長から発表いたします。福田市長、よろしく願いいたします。

市長： それでは、平成28年の年末に当たりまして、川崎市10大ニュースが決定いたしましたので、発表いたします。

10大ニュースは、1年を振り返り、市民の視点から市政や市全般にわたる動きがどのように捉えられているかを把握し、今後、市政運営の参考とするとともに、市の取り組みや魅力ある資源を発信することで市のイメージアップを図ることを目的として、毎年実施をさせていただいております。

決定方法といたしましては、お示ししたニュース候補48件を対象に投票いただき、投票数の多い順に1番から10番までを川崎市10大ニュースといたしました。投票状況につきましては、配付資料の1ページ目のおおり、投票者数は4,168人でした。これは、投票を開始して以来最多でございます。

投票結果につきましては、資料の次のページ、「平成28年川崎市10大ニュース投票結果」をごらんください。

第1位は、1,773票を獲得した、「シン・ゴジラ、川崎に現る！」でございます。続いて、第2位は、JR南武線新駅の小田栄駅が開業。第3位は、川崎フロンターレ20周年。第4位は、中原区の人口が25万人を突破、「住みたい街ランキング」では武蔵小杉が3位に。第5位は、川崎市役所本庁舎さよならイベントを開催となりました。

以下、20位までのニュースは、資料のおおりでございます。

上位に入ったニュースの感想といたしまして、まず、第1位を獲得した「シン・ゴジラ、川崎に現る！」につきましては、この映画では市内各地でロケが行われ、市民

の皆様も自分の住むまちが舞台となった映画をわくわくしながらごらんになったのではないのでしょうか。今後も、映像のまち・かわさきの取り組みを通じて、本市の魅力を広く発信してまいります。

第2位の小田栄駅の開業につきましては、川崎市内における地域と鉄道の持続的な発展に向けたJR東日本株式会社との包括連携協定に基づき、戦略的新駅として開業したものです。小田栄駅を中心として、地域の皆様や鉄道事業者等とも連携しながら、利便性が高く暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。

第3位の川崎フロンターレ20周年につきましては、節目の年にJリーグチャンピオンシップに出場し、残念ながら準決勝で敗れはしましたが、多くの市民に感動をもたらしてくれました。明後日に準々決勝を迎える天皇杯全日本サッカー選手権大会では、念願の初タイトル獲得に向けて、市民の皆様と一丸となって応援し、チームを後押ししてまいります。

第4位は、中原区の人口が25万人を突破がランクインいたしました。本市は人口増加が続き、先月には149万人を超えましたが、中原区は7区の中でも高い伸び率でございます。今後も、住みたいまち、住み続けたいまちとなるよう、魅力的なまちづくりに取り組んでまいります。

第5位の川崎市役所本庁舎さよならイベントを開催につきましては、市の発展を見守ってきた本庁舎の姿が市民の皆様の心の中にも残っていることを感じます。新しい本庁舎も、市民の皆様から愛されるものを目指して整備を進め、市の新しい歴史を刻んでまいります。

全体的な感想といたしましては、今年は「シン・ゴジラ」やヘイトスピーチ、熊本地震への支援など、全国的なニュースが川崎においても関心が高かったものと思います。また、小田栄駅開業のように、新しいまちが姿をあらわす一方で、市役所本庁舎さよならイベントでは、時代の移り変わりを感じさせられました。そのようなまちの姿の変化も、市民の皆様の印象に残ったのではないのでしょうか。

オリンピック・パラリンピックをはじめ、スポーツに関するニュースも多い中で、投票で上位となった川崎フロンターレ、川崎ブレイドサンダースのほか、富士通フロンティアーズがアメリカンフットボールのJAPAN X BOWLで2回目の優勝を飾りました。また、川崎フロンターレの中村憲剛選手がJリーグ最優秀選手賞に輝くなど、うれしいニュースの多い一年だったと感じております。

そして、中原区の人口が25万人を突破や、かわさきハロウィン20周年等、川崎の魅力が市内外に広まった一年でもございました。

平成28年川崎市10大ニュースの発表は以上でございますが、来年も市民の皆様にとって明るい話題が多いよき一年となることを願っております。

私からは以上です。

司会： ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました平成28（2016）年川崎市10大ニュースについての質疑応答に入らせていただきます。

なお、市政一般に関する質疑応答につきましては、本件の質疑が終了後、改めてお受けをいたします。

進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

幹事社： 当番幹事社です。

今、市長、総括されたと思うんですけども、うれしいニュースの多い一年だったということで、改めてなんですけれども、このアンケートと、ご自身も激務の一年だったと思うんですが、年の瀬で最後の会見ということで、今年一年を振り返って、市長にとって今年一年はどんな年であったのかということをお聞かせください。その上で、来年は市長選もあります、まだご明言はされてないですけども、来年はどんな年にしたいとか、抱負をお聞かせください。

市長： 今年を振り返って、今年、私の中で一番大きかったのは、これからの10年の川崎市政の中で最も重要な政策であると言ってきた地域包括ケアシステムを具体的に各地域でやっていくという、地域見守り支援センターを4月につくってということで、それを動かし始めたところなので、そういった意味では、非常に重要施策の第一歩を進めた年でもあったかなと思っています。総合計画の1年目ということもありますし、新しい挑戦も始められて、これがしっかりとさらに発展するように、新しい挑戦もしてきた一年だったと思いますし、先ほども触れましたけれども、市政と直接的ではないのかもしれませんが、スポーツだとか映画だとかという、そういう意味では非常に明るいニュースが多い一年だったのではないかと考えています。それはほんとうに市民の皆さんで大いにまちを盛り上げたという面では、とってもありがたいなと思っています。

来年に向けては、これまでやってきたものを、先ほどの地域包括ケアもそうなんです、これからもまだまだ課題山積であります。危機感を持ってやっていきたいというのは、これまでも申し上げてきましたけれども、人口伸びている、平均年齢若いと言いつつも、高齢化はこれから他都市を上回るスピードで急速に来るので、そういったことを危機感を持って、これからも取り組んでいかなくちゃいけないなと思ってお

ります。

何となく、そんな感じです。

幹事社： 無茶振りなんですからけれども、黒岩知事がいらっしやったので、ぜひ今年の漢字を1字で。

市長： これ、また、皆さんの前で汚い字をさらすのって……。はい。「互」ですかね。

幹事社： 「互」。

市長： これ、知事とか加山市長とか筆でちゃんと書いてあるのに、僕だけ、何か…。

幹事社： すみません、準備が。

市長： 安い感じですよ。いや、何か、風格出ない感じで。

(写真撮影)

幹事社： すみません、準備不足で。

市長： いえいえ。

幹事社： 「互」ということで、その心をお話しいただければと思います。

市長： さっきも申し上げたとおり、地域包括の互助もそうなんですけれども、お互いをこれから支え合っていく、あるいは、ヘイトスピーチじゃないんですけれども、お互いの違いを認め合っていくとか、お互い助け合うとか、そういうことをより強く感じたところですし、また、今年は熊本地震も起きて、お互いが助け合って復興していくとか、そういった力強さも感じた一年でもありました。今年、いろんな意味での、お互いさまみたいなことを感じる一年であったので、これは来年もそうかもしれないかもしれませんけれども、こんな一年だったかなと思います。

幹事社： もう1点だけ。すみません、10大ニュースに戻りますが、今回、前年と比べると2倍も伸びて、投票開始以来最多という話だったんですが、瑣末なことを市長にお伺いするのは何なんですけれども、投票開始がいつで、今回2倍に増えた理由というのは、ご自身ではどのように思われているのでしょうか。

市長： 投票開始したのは平成10年からやっていますから、19回目ということになるのでしょうか、です。それで、投票が非常に伸びたのは、まず、職員が非常に工夫して、「市政だより」にも載っけようとか、あるいはツイッターでお知らせしようとかという、市民の皆さんにお知らせする媒体を幅広くやったという、その工夫が功を奏したのではないかなと思っています。10大ニュースのことを初めて知ったという方も多かったという、今回初めて投票したという方が多かったのは非常にうれしいこ

とだなと思います。

幹事社： わかりました。いいですか。

幹事社： はい。

幹事社： じゃ、各社さん、お願いします。

司会： よろしいでしょうか。

幹事社： 何かないですか。

市長： じゃ、ちょっと私からいいですか。

幹事社： はい、どうぞ。

市長： このプレゼントなんですけれども、非常に高倍率になったのが、いずれも新商品でございまして、工場夜景屋形クルーズ、119倍の倍率、それから、市内野菜を使ったレストランコース料理、104倍、市内産農産物の詰め合わせ、75倍と、いずれも川崎の魅力たっぷりというか、農産物系、非常に人気。応募されたのも、結局、市内農産物の詰め合わせが一番応募数が高かったということです。都市農業の関心の高さと。

《市長の年末年始の予定について》

幹事社： 今年最後なので、じゃ、私から。24日にはフロンターレの準々決勝があって、市を挙げて、きのう、議会も応援されていましたが、市長は応援には行かれる……。

市長： 24日は行けないんです。

幹事社： この年末年始なんですけれども、政治家の方に年末年始もないかなという感じもするんですが、何かご予定とか、こんなことをしてみたいとか、短くあると思いますけれども、お休みがあると思うので、そのときにこんなことをしてみたいみたいな、今のところ、プランはありますか。

市長： 1日は天皇杯で吹田に行くと。勝つ前提ですから、当然のことながら。

幹事社： あけているんですね。

市長： もちろんです。行く気満々で。

幹事社： わかりました。イクボス宣言をされて、議会のほうもイクボスを応援する議決をされて、動き出したところなので、来年から本格稼働ということになるんですが、年末年始で市長もイクボスをしなければならないというか、イクボスをする機会が増えてくると思うんですけれども、お子さんとか、ご家族とどうやって過ごす……。

市長： いや、今年はほんと、さっきのスポーツの活躍で、1日が天皇杯ですよ。

3日はライスボウルで、アメフトで東京ドームに行きますし、正月、年末年始はやっぱりスポーツ三昧な感じですよ。ですから、どこで家族と一緒に過ごすか、ややあれですけど。でも、短い時間でも、いつものことですけど、充実した密度の濃い、家族と一緒に過ごす時間にしたいと思います。

幹事社： じゃ、これで。

《連合神奈川の賀詞交換会について》

司会： ありがとうございます。

それでは、続きまして、市政一般に関する質疑応答に移らせていただきます。

記者： すみません、年明けの話で、年明けになると、市長の立場だと、賀詞交歓とか、結構いろんなところに顔を出されると思うんですけども、聞くところによると、連合神奈川の賀詞交歓に来年は出られるという。関係者の人によると、初めて出られるらしいということちょっと聞いたんですけども、今まで出なかった理由と今回出られる理由とか、もしあれば。

市長： いや、言われてみると、あれ、出てなかったかなという感じですし、今年は日程調整の中で行けますねという話だったので、特に深く意味はないですけど。

記者： 他意はないという。

市長： はい。

《審議会委員について》

記者： すみません、きのう、議会も終わりました。昨日だったと思うんですが、一般質問の中で、港湾の審議会でしたでしょうか、委員の方が10年間一度も発言をされてなかったということがあったかと思えます。まず、そうした事実をご存じであったかどうかということと、審議会の委員の方が全く発言をしないということに関してどのように考えられるか。それでも、市側の答弁では、別の場ではいろいろアドバイスもいただいているというような話もありましたが、記者会見もそうであるように、何も質問しない記者というのは仕事をしてないも同然じゃないか、私見ですが、ところもあるのかとも思いますので、市長としては、市の審議会の委員の仕事のあり方とか、10年間一回も発言をしてないという人を今後もずっと再任していくことが適切なかどうかというのを、どのようにお考えかと。

市長： まず、1つのご質問に対しては、そういう事実を知っていたかというのでは、知りませんでした。きのう問題になっていたのが、1つは発言がなかったということと、それから、5つ以上兼ねているとかという話がありましたよね。審議会の委員で

すから、当然、問題意識を持っておられる方を選任させていただいているわけで、そういう意味では、発言されるのはごく普通だと思うので、ないというのは、別に殊さらにはそれが問題だということではないですけど、普通は発言されるんじゃないかなという思いはあります。

それと、幾つも兼ねているというのがありましたけども、あれは確かに、二、三百人ぐらい、多分、審議会の認定、もろもろになると、お願いしているんだと思うんですが、そうすると、やはり地域団体、例えば、町内会連合会とか医師会だとかという、そういう方々に幾つものものをどうしてもお願いせざるを得ないというのもあって、その中で17個か何か重なっていたと思うんですが、いずれも見直すのも難しいぐらいなんじゃないかなという感覚を持っています。

ですから、原則5つしかだめだというのが実態に合わないのであればルールを変えたほうがいいし、実態に即したものにルールをちゃんとやらないといけないなというのを持っています。いいご指摘だったと率直に思いますので、今回の議会、議員さんたちからのご指摘、あつというの、初めてそれは私も認識しましたと。改めべきところは改めますということの発言、僕も突然振られて、そういう発言をしたことって、今回何回かあったんですけど、非常にいいご指摘をいただいた議会だったなと思います。

記者： わかりました。ありがとうございます。

《いじめ問題について》

記者： よろしいでしょうか。先日の報道で、原発避難者の、川崎市内でも市立中学校時代にいじめを受けていたという報道がありましたけれども、今、市教委が調査をまたしていくという話なんですけど、その報道について市長としてどのように受けとめられているかということと、あと、市教委の調査について、現時点でどの程度進んでいるかとか、現時点で把握されていることは、どこまで把握していらっしゃるのか、お伺いしたいです。

市長： 調査を進めていることは認識していますし、今の状況は、調査中、現状確認中ということですから、それを見守りたいなと思っております。

記者： 本件について、もし仮に実際にいじめが起きていたということであれば、市長としては……。

市長： これは事実か事実じゃないか、あったのかないかも含めて今確認しているので、あった前提でお答えするのは控えさせていただきたいとは思っています。

記者： わかりました。ありがとうございます。

司会： いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355